

令和元年第27回定例公安委員会会議録

開催日時 令和元年9月12日(木) 午前11時15分～午後2時45分

開催場所 警察本部

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時30分

2 出席者

公安委員会 小谷委員長 衣笠委員 勝部委員

警察本部 津田警察本部長 伊貝警務部長 谷村首席監察官
長谷高生活安全部長 松岡刑事部長 柳清交通部長
牧田警備部長 竹森警察学校長 妹尾情報通信部長
樋口警務部参事官 河本倉吉警察署長

(事務局等～中嶋公安委員会補佐室長、畔田広報官)

3 議題事項

4 報告事項

- 女性職員活躍推進セミナーの開催結果(警務部)
- 警察音楽隊プロムナード・コンサートWith鳥取東高書道部2019の開催結果(警務部)
- 各種大会報告(警務部)
- 「とっとり産業技術フェア2019」におけるサイバーセキュリティ広報・啓発活動の実施(生活安全部)
- 似顔絵作成講習会及び第41回似顔絵作成コンクールの開催(刑事部)
- 「第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」に伴うお成り警衛警備(警備部)
- 活気あふれる職場を目指した取組状況(倉吉警察署)

(1) 女性職員活躍推進セミナーの開催結果(警務部)

警察本部

本年9月4日、警察本部において女性職員活躍推進セミナーを開催した。これは、女性職員の活躍推進のための取組の一環として、和歌山県警察の女性所属長を講師に招き、講演を行っていただくとともに、グループディスカッションを実施し、女性職員のキャリア形成支援や、働きやすい職場環境づくりにつなげることを目的としている。同セミナーには、女性職員のほか、女性職員を同僚、部下等にもつ警部又は警部補の階級にある男性警察官、同相当職の男性行政職員等も出席した。

講演では、「生き生きと働き続けるために」と題し、拝命からの経験を踏まえた女性警察官としての働き方、幹部としての働き方、育児との両立、生き生きと働き続けるために組織人として心掛けることなどについて講演をいただいた。

出席者からは、「女性の視点を踏まえつつ、社会人としての考え方、組織人としての立ち位置について述べておられ、男女問わず参考となる講演であった。階級に応じた組織及び個人の考え方は男女問わないものと再認識することができた。」などの感想が寄せられ、女性職員のモチベーションアップや職員の意識改革につながったものと考えている。

引き続き、女性職員の活躍推進に向けた取組や、全ての職員が働きやすい環境づくりに向けた取組を行っていく。

委員

参加者は警察本部職員のみか。

警察本部

県内の全所属を対象とした。

委員

このような方の講演を聴講し、職員間で視点を共有することは大切だと思う。

委員

鳥取県警では、女性所属長となった警察官はいないため、キャリアなどに悩んでいる職員の背中を押す効果があったのではないかと思う。様々な施策に取り組んでいるが、より良い組織となるよう、引き続き、進めていただきたい。

(2) 警察音楽隊プロムナード・コンサートWith鳥取東高書道部2019の開催結果（警務部）

警察本部

本年9月7日、とりぎん文化会館フリースペースにおいて、プロムナードコンサートを開催した。今回は、県立鳥取東高校書道部の協力をいただき、警察音楽

隊の生演奏に合わせた書道パフォーマンスを行った。同書道部とのコラボレーションは昨年度に続き3回目であり、今回は、秋の全国交通安全運動に向けた交通安全メッセージとして、縦4m×横6mの巨大紙に「交通安全 左右確認 早めのライト 反射材 思いやりとゆずり合いが命をまもる 安全安心の鳥取県をつくろう」等と揮毫した。また、演奏の合間には、秋の全国交通安全運動に向けた広報を行うとともに、観客に対し、チラシを配布した。

今回、事前広報として県警察のホームページやフェイスブックに掲載したほか、新たな取組の一つとして、NHK「ふるさと伝言板」に出演し事前告知を行った結果、過去最高となる300人超の聴衆が会場を訪れ、終始盛況であった。また、報道各社も取り上げ、効果的な広報が実施できた。

観客からは、「ふるさと伝言板を見て来た。宣伝があって良かった。」、「高校生の躍動感あふれる書道パフォーマンスは、とても素晴らしく、感激した。」などの反響が寄せられた。

委員

音楽隊の演奏も広報効果があるが、学生と一緒に行うことで、より広報効果があると思う。メッセージはどこに掲示するのか。

警察本部

来庁者の目に付きやすいよう、警察本部のエントランスホールを予定している。

(3) 各種大会報告（警務部）

警察本部

本年8月23日、鳥取市武道館において、「令和元年度鳥取県警察柔道・剣道・逮捕術大会」を開催した。

団体戦は、柔道、剣道、逮捕術で、A・B組別のトーナメント戦を行った。個人戦の柔道では、2段以上の部、初段以下の部及び女子の部、剣道では、3段以上の部、2段以下の部及び女子の部、逮捕術では女子の部を行った。

団体戦の優勝は、柔道A組は倉吉警察署、B組は警察学校、剣道A組は警察学校、B組は琴浦大山警察署、逮捕術A組は倉吉警察署、B組は智頭警察署であった。個人戦の優勝は、逮捕術以外、全て警察学校の初任科生であった。

大会予定は、本日、香川県において、「令和元年度中国四国管区内警察逮捕術大会」が開催されており、県警察から11人が出場している。この大会は、今年度から中国四国管区内9県の大会となり、9県を3県ずつに分けて予選リーグを行い、各組の各順位同士による決勝リーグを行う。本県は、予選リーグで広島県警察、香川県警察と対戦する。個人戦は、女子のみ行われる。

本年9月14日、鳥取県立武道館において、「第40回山陰柔道選手権大会」が開催される。この大会は、山陰両県の選手が出場する体重無差別の個人戦であ

り、トーナメント方式により山陰チャンピオンを決定する。県警察からは5人が出場予定である。

委員

術科大会に出席したが、警察官の家族も応援に来ており、家族に職場の雰囲気等を理解してもらう点においても良い機会だと感じた。

委員

術科大会は、全体的に初任科生が活躍していた。

今後、管区内の大会は、従来の5県から9県に増えるが、一つでも上位に入れるよう、頑張っていたきたい。

(4) 「とっとり産業技術フェア2019」におけるサイバーセキュリティ広報・啓発活動の実施（生活安全部）

警察本部

本年9月1日、鳥取県民体育館において開催された「とっとり産業技術フェア2019」において、県警察のブースを設け、サイバーセキュリティに関する広報啓発活動を実施した。これは、多数の県民が来場するイベントの機会を捉えて、サイバー犯罪の脅威やサイバーセキュリティの重要性等を広く広報・啓発し、サイバーセキュリティに対する意識の向上を図ることを目的としている。

内容は、コンピュータウイルス感染体験、サイバーセキュリティミニ講座のほか、広報・啓発DVDをブース内で繰り返し放映したり、サイバーセキュリティに関する啓発用クリアファイル等を配布した。また、併せて、特殊詐欺被害防止を呼びかける広報紙等を配布したり、警察官募集の幟旗を掲げ、採用募集に関する映像の放映等により、警察官採用試験の広報も実施した。

来場者の年齢層は幅広く、県警察のブースにおいても、子供から高齢者までの来場者が絶え間なく訪れ、大盛況であった。

委員

人が多く集まるイベントに合わせて広報を行うことは、警察だけのイベントよりも、より幅広い県民の方に広報することができ、効果的だと思う。サイバーセキュリティについて、一番は予防の観点での広報が大切だと思うが、被害に遭った場合の相談窓口についても広報を継続していただきたい。

(5) 似顔絵作成講習会及び第41回似顔絵作成コンクールの開催（刑事部）

警察本部

本年9月10日、警察本部において、似顔絵作成講習会及び第41回似顔絵作成コンクールを開催した。

今回は52人が参加し、コンクールでは、強盗事件を想定して目撃者役から犯人像を聞き取り、似顔絵を作成した。

委員

防犯カメラが普及しつつあるが、それだけでは不十分であり、似顔絵は重要な捜査資料だと思う。コンクールの作品も、よく特徴を捉えて作成されている。

(6)「第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」に伴うお成り警衛警備（警備部）

警察本部

本年9月28日及び29日、秋篠宮佳子内親王殿下が「第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」への御臨席及び地方事情御視察のため、本県にお成りになる予定であり、県警察では、警備部長を長とする「警衛警備連絡室」を設置するなどして、警衛警備に万全を期す。また、中国四国管区警察局鳥取県情報通信部による映像伝送も行う。

委員

警備に当たる職員は、事故等の発生がないよう、それぞれの任務を完遂していただきたい。

(7) 活気あふれる職場を目指した取組状況（倉吉警察署）

倉吉警察署

当署では、活気あふれる職場の条件は、「風通しがよいこと」、「前向きな目標があること」、「メリハリがあること」が大切だと考えており、各種取組を実施している。

朝礼時には、職員によるワンポイント教養、署員の一言等を実施している。ワンポイント教養は、各業務の担当者が実施しており、署員の知識の向上のほか、説明を行う担当者にとっても能力向上につながる。署員の一言は、業務の話に限らず、署員が簡単な話をしている。お互いのことを知ったり、話をするきっかけとなり、職場環境づくりにつながるものだと考えている。

時間外勤務の縮減に関する取組については、「くらしアンダー45h作戦」と題し、職員の卓上にポップカードを掲出し、「時間外勤務が多い職員の見える化」を図り、職員への意識付けや職員相互の声掛けを行っているほか、週2回は終業時間に合わせ、署員が順番にオリジナルの庁内放送を行っている。この放送はユ

ニークなものもあり、好評である。

若手育成については、採用後5年未満の若手職員の実務能力を向上させるため、「若手警察官実務能力向上実戦塾」を実施し、副署長、各課長等による教養を実施している。また、「めざせ！倉吉一番星！！作戦」と題し、若手職員が抱える不安や戸惑いを払拭し、やる気を醸成するため、毎月目標を設定し、各自が目標達成に向けて前向きに取り組んでいる。

なお、留置管理課では業務の内容等から、毎月ではなく週ごとに目標を設定し、独自に「キャリアアップ・クエスト作戦」を実施しているほか、留置補勤教養が終了した職員に「留置補勤認定証」を交付し、留置業務の重要性と責任の重大性を自覚させ、被留置者の逃走防止や警察官の受傷事故防止等に努めている。

そのほか、「やる気の出る前向き非違事案防止塾（通称：やる気塾）」と題し、署長を塾長として、警部補及び同相当職以下の全職員を年代別に分けて非違事案防止教養を行ったり、「New Age Policeスカウト作戦」と題して、警察官採用に向け、当署独自のスカウト隊を結成し、リクルート活動を実施している。

今後も工夫しながら、当署の状況に合わせ、取組を実施していきたい。

委員

本当に様々な取組を実施している。先日、北条駐在所の看板を管内の高校生に書いてもらったという報道を見たが、このような地域住民との関係づくりも良いことだと思う。良い職場づくりは、署員が良い仕事をするることになり、住民のためにもつながる。今後も、よろしく願います。

5 その他

○110番アプリシステムの運用開始（生活安全部）

○監察報告（警務部）

(1) 110番アプリシステムの運用開始（生活安全部）

警察本部

現在、聴覚や言語機能に障がいのある方に対する110番通報等の対応は、「聴覚・言語障がい者緊急通報ファクシミリ・メール110番」を運用しているが、今月中旬を目処に、スマートフォン等により、文字や画像で110番通報ができる「110番アプリシステム」の運用を開始する予定である。

（注：9月27日現在、Android用アプリケーションの運用が開始されている。）

このシステムは、専用のアプリケーションをダウンロードし、氏名、電話番号等を登録すれば国内で利用可能となる。通報時は、通報場所を管轄する警察本部へ通報でき、GPSを利用して通報場所の位置情報を通知できる。通報はチャッ

ト方式であり、写真の撮影・送信も可能である。

委員

事前にシステムを確認したが、障がいのある方にとっては、従来のメール等よりも通報しやすく、良いシステムだと思う。

委員

110番通報時は、気が動転している方もいると思う。聴取項目が何点もあったが、答えることが困難な場合もあると感じた。

警察本部

110番通報では迅速に事案対応をするため、警察官を現場に向かわせながら事案の詳細を聴取し、現場の警察官に指令している。今回のシステムはチャット方式であり、電話での通報時と同様に、警察官を現場に向かわせながら事案概要を確認していく。通報の段階で、可能な範囲で質問に答えていただき、よりの確に事案を把握し、現場に到着した警察官が早期に対応できるようにしたい。

(2) 監察報告（警務部）

警察本部から監察報告があった。

第2 その他の公安委員会活動

1 聴聞

運転免許課から、道路交通法に基づく聴聞1件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 事前説明

110番アプリシステムの運用開始

3 報告事項

- ・公安委員会宛て苦情関係
- ・審査請求関係
- ・監察報告

4 警察本部との昼食会

警察本部との昼食会に、本部長、警務部長、警察学校長の出席を求め、意見交換を行った。

5 公安委員会委員間の事前検討・協議等

6 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。